

みせ
おもておく
かまど
あらいば

しもたや
つしにかい
きやくざしき

むしこまど
くぐりど
こうし
くら



こまよせ
ばったりし
ながや

したじまど
はり
いぬやらい

くら
つぼにわ
おくのま
みせのま

勝平得之作“Winter Market at Akita”
所蔵/秋田市立赤れんが郷土館
出典/HOUSES AND PEOPLE OF JAPAN
1st edition by BRUNO TAUT

フルーノ・タウト来秋80周年記念イベント

古い町家で新しい秋田のまちづくり

日時 平成27年

11月15日

開場 13:00 / 開始 13:30

入場無料

会場 忠専寺

秋田市新屋栗田町27-8

渡邊幸四郎邸

秋田市新屋表町5番10号



主催 ■ フルーノ・タウト来秋80周年記念イベント実行委員会
共催 ■ NPO法人新屋参画屋
後援 ■ 秋田県、秋田市、秋田県教育委員会、秋田市教育委員会、秋田中央建築士会、秋田市新屋振興会、新屋商店会
ABS秋田放送、AKT秋田テレビ、AAB秋田朝日放送、エフエム秋田、秋田魁新報社、毎日新聞秋田支局
朝日新聞秋田総局、読売新聞秋田支局、河北新報、あきたタウン情報、秋田経済新聞

日本の「美意識」を継ぐ、新しい秋田のまちづくり。

スティーブ・ジョブズ、フレディー・マーキュリー、ゴッホ、クロード・モネ等世界の中に影響を与えてきた、日本の「美意識」。

その源流にあるのは織田信長、豊臣秀吉が天下統一を成し遂げた時代に生きた千利休らによる美の追求であり、

イザベラ・バードとブルーノ・タウトの二人が秋田の町並みを賞賛したのも、利休と同じ時代に生き、

秋田のまちの原型をつくった初代藩主・佐竹義宣の美意識が継承され、息づいていたからなのかもしれません。

二人の異人の残した証言に耳を傾け、古い町家を活用した新しい秋田のまちづくりについて、一緒に考えてみませんか。

プログラム

OPENING

オープニングセレモニー

戊辰戦争戦死者追悼 独唱

スペシャルゲスト

Joelle
ジョエル

幕末の頃、東北で唯一官軍に加わった、佐竹藩。破竹の勢いで進軍する庄内藩との戦いは、最新鋭の武器を携え加勢した佐賀藩の援軍のおかげで新屋で勝利を収めることとなり、戊辰戦争は終結した。この戦の戦没者は忠専寺にも埋葬されており毎年佐賀県からも遺族が慰霊に訪れる。



Joelle
ジョエル

アメリカ合衆国・ユタ州ソルトレイクシティ生まれ。その後高校卒業まで秋田に住む。優しさの中に真の強さののぞかせるその伸びやかな歌声は、ピアノの旋律に乗って聴く者の心にまっすぐ届き、安らぎを与える。デビューアルバム「Lucky Maria」が「トリック劇場版2」のエンディングテーマに採用され、以来、朝ドラの挿入歌、各メジャー会社のCMを多くこなすなど、その歌声に定業がある。現在はニュージーランド在住。日本でのステージをこなしながら楽曲制作に励んでいる。

※忠専寺は渡邊幸四郎の菩提寺で、ジョエルはその子孫にあたる。

PROLOGUE

プロローグ

～後世に受け継がれた佐竹義宣のまちづくり～

世界を魅了する日本の美意識が息づく、佐竹義宣のまちづくりとは？

1 講演

「得之とタウトの足跡を尋ねて」 講師：加賀谷さつき氏

2 渡邊幸四郎邸の 過去、現在、未来

※渡邊幸四郎邸会場に移動して
いただきます。

① 新屋町家探訪「古い町並みの見方、楽しみ方と渡邊幸四郎邸の特徴」

講師：平元美沙緒氏

徳島県徳島市出身、横浜市在住。奈良女子大学大学院で文化財(建造物)を学ぶ。2008年結婚を機に秋田県秋田市に移住。秋田市教育委員会文化振興室に勤務し、「ぐるっと文化財マップ」の制作を担当する傍ら秋田のまちづくりについて学ぶ。現在まちづくりファンリテーターとして活動中。本イベントの実行委員長。

② 「渡邊幸四郎邸の記憶と思い出」 [語り部：NPO法人新屋参画屋理事 富野昭雄氏、副理事長 藤澤浩氏]

③ 建物の状態、修繕費用の試算、文化的な価値について [発表：秋田中央建築士会]

3 実践！ 町家を活用した まちづくり

「暮らしの息づく歴史まちづくり」 盛岡市鉾屋町の取り組み紹介など

講師：渡辺敏男氏

1951年東京都出身。1973年武蔵野美術大学造形学部建築学科卒業。1980年盛岡に設計同人設立、現在代表取締役。盛岡市の城下町で町家や伝統建築が数多く残る鉾屋町地区に都市計画道路が計画された事を契機に、地元住民と専門家を中心に2003年「盛岡まち並塾」を設立し道路問題に対して町家とそのまち並み、寺社及び歴史的建造物群の重要性を理解してもらう取り組みを開始。以後独自に町家を修理し3件保存活用を

実施した他、同時に市内の歴史的資源の保存活用も進め2008年について道路計画は廃止見直しとなる。原則的に行政に頼らない住民主体の活動で専門家、行政、支援団体、マスコミが側面から下支える構造が短期間に成果を生み出し、きちんとした歴史的な資源調査をもとに、地域の確かな歴史文化をあぶりだしてまちづくりに繋げることが重要としている。

EPILOGUE

エピローグ

ブルーノ・タウトが残した私たちへのメッセージ



BRUNO
TAUT

ブルーノ・タウト

1880年ドイツの東プロイセン・ケーニヒスブルク生まれ。建築家。

1913年に「鉄の記念塔」、翌年に「ガラスの家」を発表し国際的評価を得る。1924年以降、ベルリン住宅供給公社(GEHAG)の建築家として集合住宅の設計に携わる。1930年にベルリン・シャルロテンブルク工科大学の教授に就任するも、ナチスからの迫害を逃れるため1933年に日本へ移住。高崎の少林山達磨寺洗心亭に住み、日本文化に関する著作を発表する。1936年トルコへ渡り、1938年12月24日、イスタンブールの自宅で死去。



渡邊幸四郎邸

明治23(1890)年建築(推定)。かつて秋田銘醸(勝平酒造)の名で知られた酒蔵。座敷の窓回りの細工をはじめ、2階の傘天井など、内装にも目を見張るものがあることから、貴重な建物といえる。

現在はイベントなどに利用されており、隣接する土地においては、2017年オープン予定のガラス工房と連携し、ギャラリー・アーティストの滞在場所などとして利用すべきとの声が高まっている。



忠専寺

正保3年(1646)に創建したとされる真宗大谷派の寺院。

本堂は文化年間(1804-18年)の建築とされている。内外装の彫り物の装飾も素晴らしく、状態も良い新屋を代表する伝統建築物といえる。

戊辰戦争での秋田藩の本陣でもあったため、本堂には藩士たちが銃の手入れをした銃口や鉄砲の台尻の跡が残り、当時の様子を物語っている。